

## 別府大学明星幼稚園・明星小学校での検証実践

### 幼稚園児と小学校三年生の学び合い(「ふるさとのたからもの」を教材として)

2021年7月「地域の色・自分の色」研究会まとめ

ふるさと読本「ふるさとのたからもの」作成後、明星幼稚園と明星小学校で、「ふるさとたからもの」を教材として活用しながら、幼稚園児と小学三年生が協力して学び合う検証実践も行った。

#### ○幼稚園に環境構成「色の絵本」コーナー設置

絵本コーナーでは、たくさんの色に出会えるよう読み聞かせを行い。聞いて好きになった本は自分で読んだり、先生や友達と対話しながら楽しんだりしている。

例えば・色や形遊びが楽しめる本

- ・題名に色がつくお話本・色や模様の変化をモチーフにしているお話本
- ・色の言葉遊びやリズムを楽しめる本・色の名前が分かる本
- ・「混ぜたら、どんな色」色遊び本など、

コーナー活動では、たくさんの色に出会う。読み聞かせ。好きになった本は自分で読む。先生や友達と対話を期待して設置した。



#### ○幼稚園の事前学習

「お部屋にも色があるね」「○○の色、見つけ！」

教材「ふるさとのたからもの」の絵本から色に関心を向ける

色の絵本や教材「ふるさとのたからもの」から色に興味を持ち始めた子どもたち。

「お部屋にも色がある。」と言いだしたので「自分で色を塗ってみる？」と直径5cmの円の用紙を準備した。保育室や廊下でも「色見つけ」を楽しんでいた。

子供たちの様子

- ・「いろんな色があるよ」と保育室の色見つけを楽しむ子供たち
  - ・実物の色に近づけたいとクレヨンの色を重ねる子供たち
  - ・他の友達が見つけていない所から色を探す子供たち
  - ・見つけた色を貼って、さらに戸外の周囲の色と関係づける子供たち
- 色見つけの中で、子供たちはいろんな姿を見せた。

担任の受け止め方

「いろんな色があるよ」と保育室の色見つけを楽しむ子供たち。実物の色に近づけたいとクレヨンの色を重ねたり、他の友達が見つけていない所から色を探したり、見つけた色を貼ったり、さらに戸外の周囲の色と関係づけたりする子供たちがいた。違う色のクレヨンを重ねながら、本物の色に近づけようとする子供たちがいたことには驚いた。



#### ○地獄の泥あそび

血の池地獄と天然坊主地獄から、地獄の泥をもらい、泥を使った遊び

子供たちの様子

・子供たちは、「わぁードロ子供たちのドロ」「赤い茶色?」「灰色」「水と泥に分かれている」「色が付く?」「さわってみたい」など興味津々。半信半疑で始まった泥遊び。血の池地獄、坊主地獄のいずれの泥も絵の具として用紙に着色でき、子どもたちは楽しんでいた。



・血の池地獄や坊主地獄の泥ということを意識し、「坊主地獄ができた」「血の池地獄ができた」と地獄と関連させて遊びを進める子どもたち。



### 担任の受け止め方

- ・絵本のおよみかせから、身近なおもちゃの色を取ってきて色のマッチング遊びがはじまった。子どもたちが、保育者の予想以上に、色に関心を示した。(色に関心をもっている)
- ・大人が気付かない天井の扇風機の羽根の色や窓の外の景色の色にまで、目を向けるなど、豊かな「色への気付き」が確かにうまれた。
- ・おうちの人と地獄に行ってみるなど、家庭のあたたかい協力が得られる可能性もある。
- ・血の池地獄の泥で絵を描くことで、新たな色、天然の色の発見があった。
- ※今後、先生たちは血の池地獄の泥を使って染物体験をさせたいという。
- 例えば、自分たちの生活や遊びに使う物。運動会の旗、お家の人にプレゼントできる物、Tシャツ等

### 研究会の見解

保育者は:「大人以上の子どもの気付き」に気付かされるなど、主任を中心とした保育者が、少しずつ「色」の世界に浸り始めている。

幼児は:血の池地獄の泥で絵を描く中で、「地獄は熱いから、柵を描こう」と言って描く姿や、色と地獄から想像力を働かせて、自分なりの物語を創造する姿が確認された。また、身のまわりの「色」への気付きが「色」から始まる遊びに展開するなど、自発的に「色」を通した遊びに広がっていている。

今後は:子どもたちの地獄の「色」への関心をきっかけに、身近な地域の「色」への気付きなど、新たな「地域の色」への関心につながるとよい。

### ○幼稚園と小学校3年生と一緒に「地獄めぐり」のビデオ鑑賞と教材を活用した学び合い

15日の「仲良くなる会(読み聞かせと話し合い)」に引き続き、幼稚園児と小学生三年生 110名を二班に分けてビデオによる地獄めぐり、20分のビデオ鑑賞と20分の交流会)

幼稚園児と3年生と一緒に地獄巡りに出かける予定で



あった。が、コロナ禍であることから実際の見学ができなくなり、担任が撮影してきた地獄のビデオと一緒に視聴することにした。

※佐藤園長「前回15日には、幼稚園児の本の色見つけの色はどうして出すのという疑問に、小学生がクレヨンの塗り重ねで示していた。」

### 「子供たちの声」

## 海地獄を見て

小「やばっ！！熱そう」幼「けむりがいっぱい。青がきれい」小「波がおこっちゃんね。海みたい」幼「海地獄、こわい」

## 鬼山地獄の淵の酸化した赤茶色の岩を映像で見つけて

小「ああ、ここや。この色」幼「ああ、本当」

## 噴気の声と蒸気から

小「(本と一緒に見て) 本当に、この色やな、危険やなあ。

100℃位かな？」幼「入ってみたいな」小「えっ？入ったらやばいよ」

## 蒸気が吹きあがると、

二人とも「わあー、見えん」小「完全に海地獄や」

## 天然坊主地獄で

小「おー、ポチャポチャしてる。泥かな？泥みたいだね」幼「ミルクみたい。ポチャポチャしてる。取ってみたいね」小「すくってみたいね。でも、熱いんだよね」

※幼稚園児と小学3年生がペアで地獄の映像を見る。スクリーンに映る地獄の色、湧出してくる地獄の温泉、噴気、坊主の形などを語り合いながら地獄にふれていた。

## 担任の受け止め方

(地獄の様子をビデオで視聴する子どもたちの姿から、感じられたこと)

・絵本で見たことに加えて噴気の声や蒸気の勢い、坊主地獄での泥の変化等に子どもたちは驚きの声を挙げる。まさしく、地殻の動きが地上にまで現れている現象を感じ取ったからと思われる。

(実際の見学ならさらに強烈に感じられるであろうが)

・地獄が表す豊かな色の確認をしていた。海地獄をみて「本当にこの色や。」かまど地獄を見て「同じ所なのに色がちがうね。」などを語り合う姿が見られた。

・坊主地獄は、本だけでは坊主頭のように膨れる動きが見えないが、映像ではその様子が分かり「動きよん」と驚く姿。

・映像を見て、本と照合させながら3年生が園児に説明したり、確認したり、または尋ねたりする姿が見られた。「入ってみたい」「すくってみたい」と感想を言う園児に「でも、地獄は熱いんだよ」と教える場面もあった。

## 明星小学校副校長の受け止め方

「園児と活動することで、自分が年上。お世話する立場という意識をもって園児と接している3年生が多いと感じている」

## 研究会の見解

・教材と比較しながら、噴気の声や蒸気の勢い、坊主地獄での泥の変化等に子どもたちは驚きの声を挙げていた。そして、地獄の豊かな色の確認をし、海地獄をみて「本当にこの色や。」かまど地獄を見て「同じ所なのに色がちがうね。などを語り合う姿が見られた。また、坊主地獄では、教材で表現できなかった坊主頭のように膨れる動きを見て「動いてる」と驚く姿もみられた。

・教材と照合させながら3年生が園児に説明したり、確認したり、または尋ねたりする姿が見られ、「入ってみたい」「すくってみたい」と感想を言う園児に対して、お兄さん・お姉さんとして「でも、地獄は熱いんだよ」と教える小学3年生の姿も見られた。

